

もっと  
知りたい!

# ヤクルトのCSR活動

世界各地で特色あるCSR活動を行っています。  
2018年度の主な取り組みや出来事を地域別にご紹介します。

## 日本

### 路面電車の車内で「食育教室」を開催 (鹿児島ヤクルト販売)

鹿児島市交通局のご協力のもと、鹿児島市内を走る路面電車内で「食育教室」を開催しました。出前授業のプログラム「ウン知育教室」を活用したもので、飾りつけをした路面電車は市内で注目を集めました。



### 千葉県立千葉盲学校中学部で 「おなか元気教室」を実施(千葉県ヤクルト販売)

盲学校で出前授業を行うのは初めての試みだったため、学校と事前打ち合わせを重ね、スライドの文字を大きくしたり、学校の皆さまにテキストを点字にいただいたりと工夫を重ねました。生徒からは、後日点字によるお礼の手紙が届きました。



### 海外ジャーナリストツアーを実施 (ヤクルト本社)

プロバイオティクスの機能、日本の食習慣や食育、ヤクルトの事業などを学んでもらうことを目的に、2004年から「海外ジャーナリストツアー」と称して、ヤクルトが事業を展開する各地域のジャーナリストにヤクルト本社取材してもらい取り組みを実施しています。2018年は8か国から計19名が参加しました。



### 47年目を迎えた「愛の訪問活動」



「愛の訪問活動」は、ヤクルトレディが商品をお届けしながら、一人暮らしの高齢者の安否を確認したり、話し相手になるという活動で、1972年から続けられています。

2005年からは敬老の日にお花を贈呈しています。2018年はカーネーションにメッセージカードを添えてプレゼントしました。

(写真: 両毛ヤクルト販売)

### 地域の見守り・防犯協力活動

担当地域に毎日商品をお届けしているヤクルトレディは、地域のすみずみまで目が届くことから、全国の自治体、警察などと連携して地域の「見守り」や「安全・安心」へのお手伝いをしています。お客さま宅に異変を感じたヤクルトレディが警察署に通報し、署員がお客さまを発見・救助した等の事例もあります。

2019年3月現在で、全国103社\*の販売会社で組織がつけられ、地域の「安全・安心」に貢献しています。

\*ホールディング会社傘下の販売会社を含む



### 北海道胆振東部地震の被災地への支援 (札幌ヤクルト販売)

2018年9月に発生した北海道胆振東部地震を受けて札幌市内に設置された避難所に、ヤクルト商品を提供しました。翌年2月にはこの取り組みに対し札幌市から感謝状を授与されました。



### 「第4回ヤクルトっ子絵のコンクール」を開催 (埼玉北部ヤクルト販売)

1歳から就学前までのヤクルトレディのお子さんたちを対象に「働くお母さん」をテーマに絵を募集するコンクールです。10名が表彰され、表彰式終了後には「親子ヨガ体験教室」を楽しみました。



### 広島県朝ごはん推進モデル事業に協力 (山口県東部ヤクルト販売)

広島県では、すべての児童が朝食を食べることにより、健康的な生活リズムや食習慣を確立し、確かな学力を育む環境を整えるため、小学生に無料の朝食を提供する取り組みを始めています。山口県東部ヤクルト販売では「ヤクルト400」を提供しました。

### 健康増進や子どものすこやかな成長を支援

ヤクルト球団とも連携し、本社・販売会社にて各種スポーツ活動を行っています。

- ジュニア陸上教室 ●ヤクルトジュニアカップ
- 走り方教室 ●投げ方教室 ●野球教室
- 東京ヤクルトスワローズカップ争奪、東京23区少年軟式野球大会



### 最高齢96歳のヤクルトレディが勇退 (湘南ヤクルト販売)

1963年に独自のヤクルトレディによる宅配システムを導入して以来、ヤクルトは女性の社会進出を支援し続けてきました。3月に勇退した最高齢96歳のヤクルトレディ・小沢さんのヤクルトレディ歴は、実に56年。お別れ会では「すばらしいお客さまと出会えたことが私の財産」と語りました。



### 2018ヤクルト世界大会を開催 (ヤクルト本社)

ヤクルトグループでは、お客さまに健康をお届けするヤクルトレディや社員を表彰し、グループの結束を強めることを目的に、約3年ごとに「ヤクルト世界大会」を開催しています。2018年は創始者代田 稔ゆかりの地、京都で開催され、総勢約2,700名が参加。未来に向け健康社会への貢献とグループの成長を確かめ合う場となりました。



(写真: ベトナムヤクルト)



(写真: 宇都宮ヤクルト販売)

### ワークライフバランスに考慮し イキイキと働ける環境の整備

従業員一人ひとりが健康でイキイキと働ける環境づくりを推進しています。

- ヤクルト本社: 健康管理を積極的に推進している企業として「健康経営優良法人(ホワイト500)」に2年連続で認定



- 岩手ヤクルト工場: 若者の採用・育成に積極的な会社としてユースエール企業に認定

### 江ノ島海岸清掃活動に26年連続で参加 (湘南化粧品工場)

本社、販売会社、工場では地域の清掃活動に積極的に参加しています。湘南化粧品工場では、江ノ島海岸で行われるゴミゼログリーンキャンペーンに26年連続で参加。地域の方々との絆も深めています。



# アジア・オセアニア

## 保健省と連携したピンクリボン活動 (ベトナムヤクルト)

ベトナムの国立がん病院が中心となったピンクリボン活動に、ベトナム保健省と連携して協力しています。ベトナムでは乳がんの認知度はいまだ低く、乳がん予防の啓発と検診を促進することは非常に重要です。2018年は1万人の乳がん検診や乳がん予防啓発活動に協力し、384百万ドン(約200万円)を寄付しました。



## ポリテクニク\*の成績優秀者に褒賞 (シンガポールヤクルト)

シンガポールは、世界的にも教育水準が高いことで知られていますが、その一方で成績優秀者の海外流出が問題となっています。そこでシンガポールヤクルトでは、地域に根差した企業として、卒業後の進路に地元企業を選択してほしいという思いを込め、ポリテクニクの成績優秀生徒に対して褒賞を授与しています。

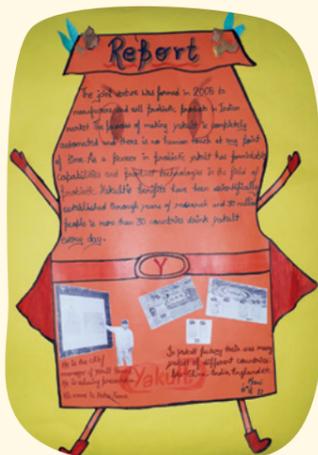
\*ポリテクニク(Polytechnic)：職業に直結するような高等な専門知識を学べる実務教育を行う3年制の専門学校で、ディプロマ(資格証明書)が取得できる教育機関



## 社会科見学を兼ねた学習支援 (インドヤクルト)

デリーにてインド日本語教師会と協力し、日本語を学ぶインド人児童・生徒や教員総勢103名に対し、社会科見学を兼ねた学習支援を実施しました。

インドヤクルトの工場見学に招待し、平易な日本語で、事業や工場の役割、ヤクルト商品の効果、腸の健康の大切さなどについて説明しました。工場見学後、児童・生徒たちが壁新聞やレポートを制作してくれました。



## スーパーラグビーへのスポンサーシップ (オーストラリアヤクルト)

地元ラグビーチーム・メルボルンレベルズの試合のハーフタイムを利用して、子どもにラグビーの楽しさを知ってもらうためのミニラグビーゲームをサポートしています。2018年は80人の児童・生徒が参加しました。また、メルボルンレベルズのヤクルトマッチデーの際に募金を行い、合計11,200オーストラリアドル(約90万円)を地元病院に寄付しました。



## 中古サッカーシューズ寄贈プロジェクトに協力 (マレーシアヤクルト)

日本の中古サッカーシューズ約200足をマレーシアの小学校に寄贈する取り組みに2014年から参加しています。2018年は、雨季に甚大な洪水被害を受ける地域の小学校のうち、家庭の事情でサッカーシューズを購入できない子どもたちに寄贈しました。



## 貧困地域の小中学校での支援 (広州ヤクルト)

中国の山間地や郊外の農村では、政府からの支援の行き届かない貧困地域が多く存在します。また、両親の出稼ぎにより取り残された「留守児童」と呼ばれる子どもがいます。そこで広州ヤクルトは2008年から深圳大学と連携し、貧困地域の小中学校での支援活動を行っています。2018年は深圳地区3校、広州地区3校で実施しました。



## プラスチックストロー貼付の廃止 (マレーシアヤクルト、シンガポールヤクルト)

世界各地でプラスチックの使用を控える動きが出てきています。マレーシア、シンガポールでは、プラスチックストローの貼付を廃止しました。

## 工場周辺での植林活動と 周辺農家の貧困対策 (インドネシアヤクルト)

インドネシアでは森林減少が深刻な問題になっています。また貧困も一因となり不法な伐採が多発し、森林の減少が河川の氾濫や土砂災害を起こす危険性があります。そこでインドネシアヤクルトでは、工場周辺で植林活動と農家の貧困対策を行っています。2018年は苗木16,000本をNGOに、100基の井戸を周辺住民に寄贈しました。



# 米州・欧州

## 法令を遵守し人権を尊重した採用活動 (アメリカヤクルト)

多民族国家であるアメリカにおいて、従業員採用時の「してもよい質問、してはいけない質問」リストを作成しています。信仰する宗教や出身地など業務上必要のない質問を禁止し、差別的な感覚を持たないように意識づけを行っています。

面接時にしてもよい質問、してはいけない質問(抜粋)

してもよい質問	項目	してはいけない質問
就業時間、日程、シフトについての質問 「日曜日に仕事をするのが可能ですか?」	宗教	宗教についての質問/宗教行事の日程を聞くこと
家族、親戚と一緒に働くことを制限する会社のポリシーの陳述	性別、婚姻関係、家族の有無	性別、婚姻関係、子ども、配偶者の質問/妊娠、出産、将来の妊娠の可能性の質問 「結婚する予定はありますか?」

## 地域の課題に寄り添った健康教室 (ブラジルヤクルト)

栄養士が高齢者支援施設、児童や青年支援団体、高等学校などへ出向いて健康教室を実施しています。参加者からは「貧しい家庭へ栄養情報を伝えるすばらしい企画です」「腸の健康の大切さがよくわかりました」などの声をいただいています。



## Yakult forest “百万本植林活動” (中国ヤクルトグループ)

2015年から内モンゴル自治区における植林公益事業に参加し、砂漠環境の改善に貢献しています。2018年までの4年間で植樹した苗木は約8,000本で、平均生存率は67.85%です(NGO調べ)。



## 孤児院の訪問 (メキシコヤクルト)

メキシコの孤児院は政府の補助や寄付のみで運営されるケースが多く、施設が老朽化し食事も最低限になっています。そこでメキシコヤクルトは孤児院を訪問し健康づくりのお手伝いをする活動を行っており、2018年は47か所を108回訪問しました。



## 障がい者法定雇用目標を達成 (ブラジルヤクルト)

ブラジルでは、総従業員数に応じて2%~5%の障がい者を雇用することが義務づけられていますが、4割程度の企業しかその法定雇用率を満たしていません。ブラジルヤクルトでは、2016年に障がい者雇用委員会を発足。障がい者が働きやすいよう、バリアフリーや短時間勤務制度などを導入した結果、2018年には従業員数の5%を上回る132人の雇用を達成しました。



## 商品の包装資材をプラスチックフィルムから紙に切り替え (ヨーロッパヤクルト)

ヨーロッパヤクルトでは、一部の国で商品の包装資材をプラスチックのシュリンクフィルムから紙のカートンパックに切り替えました。これによりプラスチックフィルムの使用量を年間約12,441kg削減できました。

